

管理コード 1020320

意見：

長い間、大変お世話になりました。

馬のための薬屋さんを開設したいという想いで、ここまでがんばってきましたが、その薬屋さんというのはわれわれはどちらかといえば臨床家よりの、消費者のための一般販売業を中心に考えていました。

いわゆる町の小さな薬屋さんですね。

製造販売業の認可ももちろんとることで、日本の流通のやり方である問屋制度をなくし、安価で自由に国の内外を行き来できる、馬のための医薬品・医療機器がほしかったのです。

日本ではそれだけ馬は本当に珍しい存在でしょうか？

今までマーケットが小さいために、日本では馬のための薬は単に、儲かるものしか真面目に取り扱われてこなかったし、馬がコンパニオンアニマルであるという意識は、ほとんどなかったのです。

これからもそういった日本民族としての意識の改革は、ほとんどなされないでしょうし、無理もあります。

ということはやはりいつまでたっても、馬に関するものはすべて、医薬品等だけではなく、馬そのものが希少のまま、変わることがないといえます。

それなのに、競馬や馬術の世界では、やれ国際化だ、開放だとせまられ、どんどん強行な姿勢で革命が行われ、見たこともないような強い馬たちが流入してきて、馬に精通したプロフェッショナルな人々が現れ、ジョッキーや、馬の歯医者や、牧場労働力や、その他知識のありとあらゆることに、海外の最先端の馬文化が流入してきたのです。

第一回ジャパンカップが開催され、その後日本の大事なクラシックレースが国際競走として次々開放していった経緯の中で、国内でのぬるま湯である程度楽しめていた競馬が、どんどん複雑化し、毎年変化し、ついていけなくなったファンのどれほど多くいたことか。競馬は公正な自由競争の中で、行わなければレースの前に、結果が見えているレースなどに、命の次に大事なお金をかける人は、いなくなって当たり前。

官民癒着ぎみの現在の競馬のあり方そのものに、私自身も幻滅し、あれだけ好きだった競馬そのものに、魅力を感じるものがなくなっています。

競馬はもっと単純であるべきです。

お役所の考えでは、それはすでに、公正ではない。

今のままで、海外からさらに強い馬、際限なくお金のある馬主が、入ってきたとき、いつまでたってもわれわれにだけ規制をかけて、身動きできないままどうやって戦えという

のですか！

馬の医薬品を輸入販売してきた従来の製薬会社に、馬を真摯に愛する気持ちがあるわけでもなく、儲け主義のみの姿勢では、次なる馬のための医薬品を期待することはできない。馬産地日高の、語らぬ人々を代弁して強く訴えなければならないこと、減反政策と同じように乳量制限と同じように、いつの世も、農民は官にいじめられ苦しめられ続けている現実である。

日高は本当に馬が好きで集まってる人々の集団なのですよ。その私も人生をかけて、ここに入植しました。まわりにも、今回の提案に関して、普段いくら仲が悪くても、これだけには一致団結してくれる自信と希望と勇気をくれる声・声があります。

これまでどおりのやり方で、単なる製薬会社のお仕事をしなさいというような、今回の回答では、われわれ馬の薬屋さんは、やりだす前に沈没です。

治験そのものが、小さな会社では認められない、大きな会社にならなければならない、莫大なお金がかかるものであるとするならば、安価な馬の薬が日本の国に出回ることは、将来ともどもないでしょう。

それと同時に、日本の競馬の将来もないということです。

この馬の仕事に暗雲を立ちこめないため、今 JRA もよく考えていただきたいことは、国民の数少ない賭け事・レジャーとして競馬がかつて成功を取めた、その縁の下の力持ちは誰であったのかと。

馬産地日高は静かにその生涯を終えようとしています。